

1 社会・治安情勢

当国で7月に発令された準非常事態宣言は3ヶ月間の効力を保持後、国民議会の採択によって解除された。その後、ザンビア国内において脅威となる事案はこれとあって発生していないが、刑務所に収容されていたザンビア最大野党 UPND の党首が無罪となり、出所したことにより関係治安当局は警備、警らを含めて強めている。

また当国では在留邦人が多数居住するルサカ市を取り囲むようにコンパウンド（貧困層地区）が存在し、儀式殺人事件などの凶悪犯罪が発生しやすい傾向にある。貧困率は依然として高く、特に首都ルサカ市、リビングストーン市観光地区、コッパーベルト州の主要都市等を中心に失業者やエイズ孤児等が溢れており、貧困に起因する犯罪が後を絶たない。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 在留邦人が多数居住し比較的安全とされているルサカ市においても銃器を使用した複数犯による住居侵入強盗、車両強盗、路上強盗が断続的に発生しており、特に、夕方から深夜にかけての犯行が多い傾向である。また、日中であっても人の集まる所では、スリや置き引きなどが発生している。

(2) 邦人被害事案

1 2月、在留邦人がルサカ市内の飲食店で家族と食事中に外に駐車中の車両の窓ガラスを割られ、車両のサウンドシステム、パソコン、携帯、ハンドバックを盗まれるという事案が発生している。在留邦人に怪我はない。

(3) 邦人以外の被害事案

ア 10月16日、MISISI TOWNSHIPにおいて、32歳女性が夫の背中などナイフで刺し、刺殺する事件が発生した。

イ 11月9日、ルサカ市 KANYAMA COMPOUND において、妊婦が夫に鉄製の棒で殴打され死亡する事件が発生した。

ウ 12月27日、西部州の SENANGA 地方において、6歳の少年が父親にナイフで刺殺される事件が発生した。その時間帯に母親は不在であった。

3 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

関連情報なし